

学生と教員の協働による実践的心理学研究

背景・目的

本教育研究課題は、心理行動科学科 1 年次必修科目である「心理行動実践セミナー」を核とし、本学科のモットーである「心理学は、机の上だけでは学べない。」に則り、学生と教員の協働を通じた実践的な心理学研究を展開するものである。

「心理行動実践セミナー」では、年度初めにグループを決め、議論による検討課題の精緻化、データの収集、分析、考察および成果の公表(毎年 11 月 23 日(祝)に「ココロサイコロ 20XX」を開催、一般に向けて研究発表を実施)を行っている。これら一連の活動を通して、(1)卒業研究を遂行するのに必要な心理学研究スキルの下地の獲得、と同時に、(2)心理学研究が日常的な活動へと繋がっていることへの体験的理解、(3)教員や他の受講生との協働による協調性、(4)研究成果の一般の方々への説明による情報伝達のスキル、などの育成が期待される。

実施内容

今回は、以下の 3 つのテーマを設定し、グループごとに検討を行った。

無意識を科学する 無意識におこなわれているひとの行動を観察し、心理学の立場から無意識を科学する試みを行った。写真を撮られるときついしてしまうしぐさや、階段を上り下りするときのくせ、または、自由に数字を選んでいる時にそこに現れる規則性や、知らず知らずのうちに他人の行動につられる特徴など、仙台駅周辺での実験・調査をまとめた。

介護職員のココロ 離職率が高いことが、人手不足の理由の一つに挙げられている介護職について、心理学的に検討を行った。介護職員(ベ

テラン職員・新人職員)の方々に、なぜその仕事を選んだのか、仕事のやりがい、ストレスに感じることなど、ヒアリング調査を実施した。また、介護職に対するイメージ調査からも人手不足の理由を考察した。そして、同じく人を支援する看護師や保育士の仕事のイメージとの違いについても検討した。

続・義援金を寄付する心理 ひとが義援金を寄付する動機と、時間の経過による義援金寄付への意識の変化について、大学祭で実際に義援金募集活動を行いながら実験や調査を行い、心理学的な考察を試みた。グループを 3 つに分け、(1)募金活動者の衣装の違い、(2)被災地の被災前の写真と被災後の写真を提示した場合、(3)パペットを用いた場合と普通の募金箱を用いた場合、また、透明の募金箱と不透明な募金箱を用いた場合の、それぞれの募金額の変化について検討した。

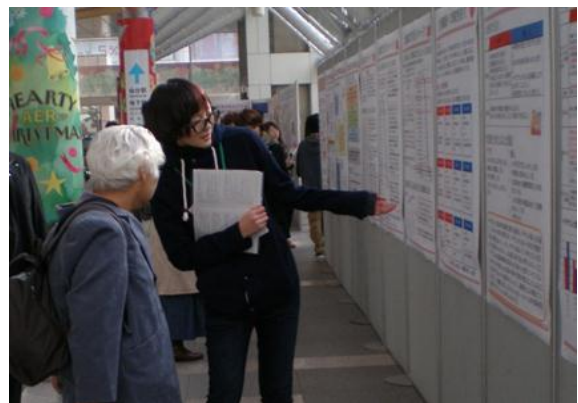


図. ココロサイコロ 2012 での発表の様子

結果及び考察

いずれのテーマにおいても、授業時間外の活動も含め受講生は長時間活動に従事しているので、心理学研究スキルの下地、心理学と日常的活動との繋がりの体験的理解、協働による協調性、情報伝達のスキルを、一定程度獲得できていると考えられる。